

ニュース・ミツバチ科学研究施設から

訃報 岡田一次名誉教授

ミツバチ科学研究施設元主任で玉川大学名誉教授の岡田一次博士は、1999年3月18日、肺炎のため逝去された。享年89歳。葬儀は、かねてからの岡田先生のご希望により、昆虫学研究室の卒業生で、現在、農学部育種学研究室の教授であり、住職でもある稲津厚生先生を導師として、大学からも近い孝養寺にて、22日にお通夜、23日に告別式がしめやかに行われ、養蜂業界の方々や研究室の卒業生など多数が最後のお見送りをした。心から冥福をお祈りしたい。(本文 pp. 49-52 参照)



岡田一次先生の葬儀の様相

奄美大島でニホンミツバチの 生息を再確認

施設主任の吉田忠晴教授、昆虫学研究室4年生2名、熊本県八代市の養蜂家福田道弘氏の4名は1999年3月29日～31日の3日間、奄美大島でのニホンミツバチの生息状況を調査した。

これまで吉田教授の沖縄本島、石垣島での調査では、ニホンミツバチの生息は確認できなかったが、奄美大島宇検村湯湾でバラ科のシャリンバイに飛来している多数のニホンミツバチを採集することができた。奄美大島でのニホンミツバチの生息記録は、これまで報告されているが、それを再確認するものである。

ミツバチ科学研究施設に 3部門を設置

これまで当施設は、部門を定めずに広範囲にわたる研究活動を進めてきたが、研究の専門化や高度化が進行し、研究分野は多岐にわたってきている。そこで、1999年4月から、生命を扱う部門としてミツバチ生物学研究部門、生産物を扱う部門として生産物研究部門、さらに他分野との学際的な応用部門として花粉媒介機能研究部門の3部門を設置し、研究に取り組んでいくことになった。

スタッフの動向

1998年4月よりカナダのサイモンフレーザー大学でマルハナバチの情報化学物質の研究に従事していた小野正人助教授は、1年間の研究を終えて、1999年3月30日に帰国した。

前述の3部門の設置に伴い、昭和薬科大学で長年にわたってプロポリスの薬理学的研究を進められておられた藤本琢憲教授を、4月から生産物研究部門の特別研究員(客員教授)としてお迎えした。

編集後記

岡田一次先生の葬儀には多くの関係者の方のご参列、弔電をいただき、研究施設としても御礼申し上げます。岡田先生の創設した当施設と創刊された「ミツバチ科学」の灯を守っていくことが、残された我々の当面の任務と肝に銘じて、いっそうの発展を期しながら日々の職務を遂行する所存でいたい。

さて、今号は1年ぶりのプロポリス特集号である。プロポリス研究者協会の講演を中心に記事を掲載させていただいた。関係者の方々に感謝したい。拙文「インターネットのミツバチ」は最終回。ミツバチ科学研究施設のホームページの閲覧数も週に100アクセスを超えるようになり、一般の方々からの問い合わせもふん増えてきた。更新作業が実は大変で、「ミツバチ科学」の編集に加えて、仕事が遅れがちだが、今年は玉川の丘でもニセアカシアの流蜜がよくミツバチの方は順調で助けられている。(純)